上尾市立太平中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

○社会に貢献できる人材の育成

学校課題研究主題

発達段階に応じた「知る」「深める」「内省する」９年間の道徳教育
～きまりの意義を理解し、自らを律することのできる児童生徒の育成を目指して～

学力・学習状況調査の結果

R８全国学力・学習状況調査	R８埼玉県学力・学習状況調査	R７ 上尾市立小・中学校学力調査
国語、数学、理科ともに平均正答率は全国平均を下回る。 [国語] 自分の考えを根拠に基づいて書くことに課題がある。 [数学]すべての分野において平均を下回っている。特に、基礎的な知識の正しい理解や技能にに課題が見られる。 [英語]要点を捉えたり英文を書く力が特に低い。まずは、単語や文法等の基礎的な学力を身に付け、それらを活用する力を身に付けさせることが大切である。	・学力レベルが県平均を下回っている教科、学年が多い。 ・国語・数学・英語ともに基礎的な知識の定着に課題が見られる。 ・上位層と比べて中間層や下位層が伸び悩んでいる傾向がある。 ・非認知能力が前年度よりマイナスになっている項目がある。 ・数学については、全体的に学力が低く、特に基本的な計算に課題がある。	１、２年生において、国語、数学、英語の全教科において平均正答率が全国平均を下回る。評定別人数比を見ると、評定２以下の割合が中１、中２ともに11.4%高いことがわかる。 ・国語においては書くことの正答率が特に低い。 ・数学においては計算のみ全国正答率を上回っている。 ・英語においては１年生は書くことが課題だが、２年生は書くことが全国正答率を上回る。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○ 読む、聞く、話す力の育成 ○ 計算力の育成 ○ 知識・技能に繋がる理解力	○ 課題や問題に向き合い、解決していく力の定着 ○ 自らの考えや思いを伝える力の育成	○ 粘り強く学習に取り組む姿勢や態度 ○ 自らの学習方法や態度がよりよいものになるように調整する力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○ ドリル学習の充実 漢字練習、計算練習、小テスト、まなびポケット等で自動採点ドリル学習を実施する。 ○ ICT 端末の活用 画像・動画等を用いて、視覚的にもわかりやすい授業を行う。	○ 課題設定の工夫 身近な話題や興味のある課題を設定し、思考力・判断力を高める授業を行う。 ○ 表現力を高める授業 論述やレポートの作成、発表、話合い活動、作品の制作や表現など多様な活動を取り入れる。	○ 興味関心を高める工夫 本時の課題や評価を明示することで授業への参加意識を高める。 ○ 振り返りの時間の設定 授業の終末に振り返りの時間を設定し、次の授業への意識付けを図る。

本校の特色ある取組	家庭教育との連携
○ 太平中レインボープランの実施 [挨拶] [高唱] [表明] [傾聴] [称揚] [整頓] [黙読] ○ レインボー・アワーの実施 ○ 朝読書時における読み聞かせの実施 ○ 太平中学校区における小中学校での連携した取組	○ 道徳通信の発行（毎月１回） ○ 学校だより、学年だよりの発行 ○ 保健だより、情報通信、進路指導通信、ホームページの活用 ○ 太平ノート、テスト計画表の活用 ○ 三者面談の実施 ○ 学校メール配信システムでの情報発信

2　学力向上を図る取組

（1）各教科の授業における取組

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
① 読む、聞く、話す力の育成 ② 計算力の育成 ③ 知識・技能に繋がる理解力	④ 課題や問題に向き合い、解決していく力の定着 ⑤ 自らの考えや思いを伝える力の育成	⑥ 粘り強く学習に取り組む姿勢や態度 ⑦ 自らの学習方法や態度がよりよいものになるように調整する力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、④、⑤	① スピーチや少人数での話合い活動の実施。 ④ 集団で課題に取り組み、解決する活動の実施。 ⑤ 課題作文練習の実施。	
社会	①、④、⑥	① 少人数での話合い活動を積極的に取り入れる。 ④ 現代の課題に関連させて考える。 ⑥ 定期的にワークやAIドリルに取り組ませ、できるようになるまで問題演習を行う。	
数学	②、④、⑤、⑦	②⑤小テストや再テスト、教え合い活動を活用して確実に定着するまで取り組ませ、見守る。 ④⑦授業やテストの取り組みについての振り返りを充実し、自らの学習について調整する機会を設定する。	
理科	③、④	③ AI型教材の利用等、ドリルによる反復学習を習慣化する。 ④ 仮説→結果→考察→まとめの過程から科学的な思考力をもとにしたレポートの書き方の定着を図る。	
外国語	③、④、⑤、⑦	③単語練習や単語小テストを帯活動で実施する。 ④⑤既習表現を想起させて書く活動を行うとともに、内容の適切さ及び正確さに係る指導を行う。 ⑦ICT端末の活用や振り返りを実施して、自分の知識・技能を広げたり課題を見つけたりする。	
音楽	④、⑤	④⑤ 考えや思いを言語化するためのヒントを提示し、周囲やグループワークでの意見交換の場を取り入れる。	
美術	③、④	③制作中に技能に関するアドバイスを個々に行い、個のイメージを広げる中で主体的に制作できる技能を身につけさせる。 ⑤思いの伝わる制作活動をすることで、自己肯定感を持てるようにする。作品展示を通して、自己肯定感を後押しする。	
技術	③	③ 自主学習に使えるコンテンツを作成する。そして、そのコンテンツを題材ごとに使用する時間を確保する。	
家庭	④、⑥	④ 生活の中から問題を見出し、習得した知識・技能を活用したり、仲間と対話したりしながら課題解決する場面を設定する。 ⑥ 学習や製作の過程を段階的に記録し、見通しをもって目標に向かえるようにする。	
保健体育	④、⑥	④ 思考ツールやICT機器を活用して、運動のポイントや課題を言語化し、仲間と協働的に課題解決を図る場を設定する。 ⑥ 主体的に取り組む姿を具体的に生徒に提示し、その実現を目指させる。	
特別の教科　道徳	①、⑤	① 少人数での話合い活動を積極的に取り入れる。 ⑤ 意見が言えない生徒に対してICT端末で視覚的補助を行う。	

A･･･取組の効果が十分に見られた　B･･･今後も課題として取り組む　C･･･取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○ 太平中レインボープランの実施	○［挨拶］［高唱］［表明］［傾聴］［称揚］［整頓］［黙読］
○ 「レインボーアワー」の実施	○ 定期テスト前の部活動中止期間中に、自分の課題を持ち寄り、学習する場を提供する。分からない問題がある場合は、生徒からの質問に答えて学習補充を行う。
○ 朝読書における読み聞かせの実施	○ 各学期に１回、朝読書の時間を利用して、学校運営協議会員、保護者による読み聞かせを実施する。
○ 太平中学校区における小中学校での連携した取組	○ ９年間を見据えた規律ある態度の育成に向けて、年４回の小中学校での取組を共有する会議の実施や年１回の相互授業参観を実施する。 ○ 道徳ノートの活用
家庭教育との連携	
○ 道徳通信の発行	○ 月に１度、道徳通信を発行する。各教員より道徳に関する話題や実体験等を踏まえた内容とし、発行日の朝読書の時間に活用する。
○ 学校だより、学年だよりの発行	○ 学校での生徒の活動の様子や、今後の予定を知らせる。
○ 保健だより、情報通信、進路指導通信、ホームページの活用	○ 定期的に家庭への啓発を図る。 ○ ホームページや学校メール配信システム等を更新することで、情報発信を積極的に行う。
○ 太平ノート・テスト計画表の利用	○ 太平ノートを利用し、家庭学習時間を記入する。定期テスト前にはテスト計画表をつくり、毎日の学習の進度状況を担任と家庭とで共有する。
○ 三者面談の実施	○ 全校三者面談を年２回実施する。
○ 学校メール配信システム	○ 学校からの文書や各部活動からの連絡等は学校メール配信システムで発信することにより確実に情報が家庭に届くようにする。